森を渡る風のささやき・渓流のせせらぎ・野鳥のさえずり・そして森に集う人々の声

森林ボランティア情報誌

あきた森のシンフォニー

Akita Forest Symphony

平成27年
3月10日発行
vol.2

●表紙について●

鳥海山にブナを植える会(須田和夫会長)では、10月25日に設立20周年記念植樹会を開催した。植樹会場であるにかほ市の鳥海山３合目付近にある霊峰公園には県内外から142名が参加し、秋晴れの鳥海山に550本の苗木を植栽した。

また今年は設立20周年を迎え、11月8日の記念式典では講演会やシンポジウムを開催した。

CONTENTS

特集／森に集う仲間たち―2
白神・山の森・海の森・二ツ森づくり
特定非営利活動法人 白神ネイチャー協会

みんなで行動 森づくり―6
森づくり税 2014活動報告

県民参加の森づくり事業―10

森林ボランティア活動レポート―11

緑とともに生きる《緑のムラ》―12
北ノ又

インフォメーション―14

頑張る森林ボランティア―16
九十九島の景観をまもる

あきた森づくり活動サポートセンター／愛称：モリエールあきた

あきた森のシンフォニー vol.2
平成27年3月10日発行
編集・発行／あきた森づくり活動サポートセンター／愛称：モリエールあきた
〒019-2611 秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4 プラザクリプトン内
TEL 018-882-5570 FAX 018-882-5571
印刷／有限会社パレア

頑張る森林ボランティア

九十九島の景観をまもる

九十九島の松をまもる会 事務局　石船清隆

松をまもる会

昭和57年、秋田県で初めて旧象潟町において松くい虫による被害が確認され、平成3年には象潟九十九島の黒松が枯れる被害が確認された。その後、さきに被害のあった自治体を視察するなど、松くい虫防除対策について地元住民や行政が検討を重ね、平成11年に「九十九島の松をまもる会」が発足した。日本の原風景に似合う立派な松をまもり、象潟九十九島の美しい景観を後世に引き継がなければならないとして結成した会である。会員は市内と県内外あわせて２００人ほど。企業や団体が会員の賛助会員は40団体が加入している。

松枯れから草との戦いへ

松の幹に薬剤を注入する樹幹注入や無人ヘリコプターによる薬剤散布などは行政が行っている。当会では九十九島にある松の本数調査や樹勢調査、植樹、下刈りを行ってきた。その結果、平成25年度までに九十九島の松が８００本以上伐倒されたが、昨年から伐倒数はゼロとなった。九十九島は自然公園法が適用される鳥海国定公園エリアのため、島内にある松ぼっくりから種を採り、２～３年かけて苗を育てて植樹するという手法をとっている。しかし、つる性の雑草が首を絞めるように松苗に巻きつくため、せっかく植えた苗も秋には全て枯れているという状況があった。行政でも年１回、業者による下刈りが行われ、当会でも６月に実施してきたがそれでも現実は厳しかった。植樹した苗が枯れないよう、ある程度生長するまで下刈りすることを会員の中で模索していた。そんなところに森林・山村多面的機能発揮対策交付金の話が飛び込んできた。機械による草刈のため、全会員が参加することはできないが、60歳以上の有志が朝７時すぎから毎日４時間、中には草刈機械を触ったことのない人も参加した。平成25年度は４ヘクタール、26年度は６ヘクタール実施し、なによりも隣接する農家からも喜ばれたことがうれしかった。

三位一体の保全

九十九島は国指定天然記念物「象潟」として１０３の島々からなり、島だけで約24ヘクタールある。昨年３月には、国指定名勝「おくのほそ道の風景地　象潟及び汐越」として、蚶満寺を含む９島が国の宝物となり、景観の評価を受けている反面、九十九島のエリアは耕作放棄地が多くなっている。このエリアは水田を継続していかなければ景観を維持できないことは明白である。今後は国定公園も考慮した里山としての活用、このエリアで隣接する農地との共生を図るという、文化財と国定公園、農地の「三位一体」の景観保全活動を検討し、松苗の生長に期待しながら日本の原風景を守っていきたい。

特集

森に集う仲間たち
白神・山の森・海の森・一ツ森づくり

特定非営利活動法人 白神ネイチャー協会

八峰町八森には2つの「一ツ森」があるという。一つは世界自然遺産に登録された白神山地を見渡せる「一ツ森」、そしてもう一つはハタハタの漁場である海の「一ツ森」だ。白神山地から流れ出す真瀬川や泊川など大小の河川は見事な渓谷美を創りだし、白神の豊富なミネラルを含みながら海へと流れ出る。この栄養分豊かな海が好漁場となり、古くから漁業の町として栄える。秋田名物を歌い込んだ民謡「秋田音頭」の出初めが〝秋田名物八森ハタハタ…〟と歌われたくらいで、今でも師走には季節ハタハタ漁で浜辺は活気づくのである。

今回は、この地に誕生し活動を続けている特定非営利活動法人白神ネイチャー協会について、3代目となる現会長の辻正英さんと事務局を担当している大高文恵さんからお話を伺い、その活動状況を紹介することとした。

辻さんと大高さん

日本海中部沖地震と海の変化

現会長の辻正英さんは、磯浜に面した滝ノ間に住む。役場の職員として地域の振興発展に長年取り組み、2013年に退職すると同時に会員に押されて会長となった。

子どもの頃から家の近くの海に潜っては、岩にへばりついた貝を捕ったり魚を釣ったりしていたという。海に沈む岩にはたくさんの海藻が生え、その状況を記憶して今どこにいるのか判断しながら潜っていたそうだ。

しかし、1983年5月26日正午前に発生した日本海中部沖地震は、4m以上もある津波を八森の海岸へ押し寄せ、釣り人や町の人の尊い命を奪った。

その後、辻さんが海に潜ったところ海藻は引きちぎれ、丸裸同然の岩が見えるだけで海中の様子は全く変わってしまっていた。藻場が消滅してしまった海では当然漁獲量が激減し、改めて藻場の大切さを認識したという。

白神ネイチャー協会発足

白神山地が世界自然遺産に登録されたのは1993年5月のことだ。人為の影響をほとんど受けていない世界最大級の原生的なブナ林が分布し、この中に多種多様な動植物が生息・自生するなど貴重な生態系が保たれており、その価値は、地球的に見ても極めて重要であると評価されたものである。

八森町では、これを機会に「白神山地」の魅力を発信することとし、その手段として白神の森をガイドする人材を育成することとした。こうして誕生したのが「ふなっこ自然環境指導員」で、1994年3月に22名が登録されたのである。

フィールドがあり、指導者もそろった。白神の春夏秋冬を楽しんでもらおうと「白神探検隊」を企画すると、首都圏を中心に20名の参加があり、2年間実施した。こういったガイド活動を通じて、改めて町の自然環境を見つめてみると、海辺では海藻類が極端に少なく、磯焼けに近い状態であった。そして山に目を向けると人工林は手入れがされていない。森が荒れると栄養分に富んだ水が流れて来ないのではとの危惧を抱いたのである。

「山と川と海の結びつきを考え、その連鎖を取り戻そう」さらに、白神山

地の世界自然遺産を永続的に維持していくためには、その周辺の森を復元しようではないか。それが豊かな磯辺を取り戻すことにつながるはず。」、こういった共通認識を関係者が持ったのが『白神ネイチャー協会』発足のきっかけである。

1997年5月に設立したこの会は、2004年には活動基盤の強化や民間活力の導入を図ることとし、NPO法人へと移行、現在に至っている。

ブナの森づくりを目指して

2014年10月5日、15回目を迎える「白神の森にブナを植える」イベントが開催された。毎年、植樹ボランティアを募集しているが、今年も町民のほか県内外から180名のボランティアが参加した。

辻会長は開会のあいさつで、「一人3本のブナの苗木を植えて下さい。木を3つ書くと"森"という漢字になります。ブナの森には多くの植物が繁茂し、昆虫や動物が集い、豊かな生態系を創り出す。大きな森になることを期待しながら木を植えていただきたい。」と語った。

一人3本植えるのは、第1回目からということで、これまでに白神の森へ6000本を超えるブナの苗木が植栽された。

当初は、二ツ森登山口へ向かう青秋林道沿いなどで植樹を行ってきたが、2004年から「ナメトコ沢」という所の町有林スギ伐採跡地で実施している。植栽されて10年目となる森はすくすくと育ち、白神の森を広げつつある。

すくすく育つブナ

色づいてきた山々が見下ろしてくれる植栽地。唐鍬を振り下ろすと地面にポックリと穴が空き、黒い土が顔を出す。その穴を大きく穿ちながら木の根や小石を取り除き、苗木を入れて土を戻し、ていねいに根の周りを踏み固めて大地に戻す。

下刈り時に間違えて伐られないように設置する杭は、一面をきれいに削ってあり、記念に名前を記したり、植栽したばかりのブナの苗木にメッセージを送る。

子どもたちも頑張る森づくり

植樹会場に歓声が広がる。家族で訪れた子どもたち、団体で参加した子どもたちが会場に散らばって各々唐鍬を振るう。色とりどりの服装が、秋の森をさらに賑やかにする。

団体参加の『イオンチアーズクラブ』は、小学校1年生から中学校3年生までの子どもたちが環境に関する様々な活動を行っていて、環境に興味を持ち、考える力を育てるとともに、集団行動を通じて社会的なルールやマナーを学んでいくクラブ。「地域でのゴミ拾いや壁新聞づくりをしている。植樹も今年でこれが3回目。」という。「植えた木の支柱に、名前やメッセージを書くと植えたぞ～！という気分になる。」、「自分が植えた木が森になるなんて素敵なこと。」と応えてくれた。「今日も森づくりを応援する仲間を見つけることができた」という気持ちに満たされながら、秋田県漁業協同組合女性部「ひより会」の皆さんが差し入れてくれたオキギスのつみれ鍋をいただいた。

植樹の記念にパチり、イオンチアーズクラブの会員たち

活動の拠点「ぶなっこランド」

会の活動拠点は、真瀬川の名勝地である三十釜渓谷にある「ぶなっこランド」。会ではこの施設の管理を委託しており、自然観察会やキノコ植菌体験など年間15回程のイベントを実施し、年間100名を超える人々が集まる。

また、植樹のブナの苗木を養成する場所でもある。ブナの実から発芽させ、ポットに植え替え、3～5年になってから白神の森へ帰してやる。苗木の管理や植栽地の刈り払いは、会員の有志によって行われ、一年一年たくましくなっていくのがわかる。

森に帰る日が楽しみ！ブナの苗木

会ではこの外に、白神八峰商工会が主催する「アワビの里づくり植樹」、「秋銀の森植樹」、「八森中学校の植樹活動」に会員が植樹指導をしているほか、「ぶなっこ自然環境指導員」を改称した「八峰町白神ガイドの会」の事務局を引き受けることになった。ブナを中心とした広葉樹天然林が広がる「留山」や二ツ森への案内を行うなど、その活動は幅広くなっている。

事務局の大高文恵さんは、「イオン財団の協力や県の森づくり税を活用することによって、運営することができている。」と話す。さらに「率先して活動している方は高齢の会員が多い。若い人たちの参加を期待していますが、仕事との両立は難しいのでしょうね。」ここが、多くの森林ボランティア団体が抱える悩みでもある。

新たな活動に向かって

ブナの森が拡がっていくにつれ、その維持管理を会員の奉仕だけに頼ることは難しくなってきた。

そこで会では、国の交付金事業を活用することとなった。これによって、作業する会員の日当や燃料代を支払うことができるようになった。

大高さんは、「ベテラン会員と若手会員が一緒に作業をすることによって、若手会員には技術を会得してもらいたい。ベテラン会員にも、『若い者に負けてたまるか！』と発憤してくれれば、会の活動も活気づくでしょう。これまで作業にノータッチだった会員の方々も『自分もやってみようかな？』、『何かできるかもしれない』と思ってもらえる雰囲気づくりもしたいのです。」と語る。

辻会長は語る。「白神の森を訪れる全国・全世界の人々に、白神の魅力を堪能してもらうとともに、そこに暮らし、白神を守る活動している我々を知ってもらいたいと思っています。ガイドにも我が会員が多数登録しています。訪問者と接する機会の多いガイドの皆さんに、白神の自然の魅力と併せて我々会活動のことも伝えてもらいたいと考えています。

そして、白神の森を造る仲間の輪をおおきくして地域を守っていきたいのです。」

かつて漁業を営む人々は、漁のない時期には漁具の手入れや森の手入れを行い、木を売った収入が家計の一助となっていた。伐採したら次の世代のため植林し、森の保全に努めてきた。この行為が、森と海をつなぐ水の循環に大きな役割を果たしていたのだ。

「つなぐ」、この会で大切にしている言葉であろう。「山と海をつなぐ」を肌で感じ取っている会員は、会活動が継続し、発展させていくためには、「人と人とをつなぐ」、「地域と地域とをつなぐ」という交流の輪を創り出していきたいと考えている。

この活動が、豊かな森を、海を造り、豊かな心を育むふるさとづくりにつながっているものと確信している。さらに多くの人々に参加していただきたい。ここを訪れる人々が、豊かな自然の恵みを満喫するために。

ガイドの会員が白神の森の魅力を伝える

秋田県水と緑の森づくり税事業

みんなで行動 森づくり 2014 活動報告

地球温暖化をはじめとする環境問題への関心が高まるなか
様々な森林ボランティア活動が年々活発に行われています。
「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用した活動事例の一部をご紹介します。

鹿角市　「ブナの恵み」を頂きます！　《6月1日》

場　　所●鹿角市八幡平
実施主体●秋田八幡平・森づくりの会

秋田八幡平・森づくりの会は、県民提案事業を活用し、早春の森を観て食べて体験しながら「森と人のかかわり」を考えてもらう集いを開催しました。

会場は、会員が協働で森林整備をしている森林です。積雪の多いこの森は雪消えが遅く、他の地域では山菜採りが終盤を迎えるこの時期に、雪消えを追いかけるように木の芽が伸び、花々が咲き誇ります。

４６名の参加者は、次の年の収穫を楽しみにナメコやシイタケの植菌作業に取り組みました。そして、ブナの森の芽吹きを愛でながらコシアブラやタラノメを収穫、早速調理して「いただきます。」春の味に舌鼓を打ちました。

お腹を減らすために先ず働こう

収穫された木の芽、たくさん採れました

薪ストーブを使って調理。やっぱり天ぷらが美味しいです

北秋田市　森吉四季美湖ダム周辺に桜の森へ　《6月24日》

場　　所●北秋田市森吉「四季美湖ダム周辺」
実施主体●グリーンメイク清流を守る会

森吉ダム湖（四季美湖）周辺の自然環境を整備して「1000m年先まで残る公園」を作ろうと、県民提案事業を活用して「桜の咲き乱れる憩いの場」づくりに取り組んでいます。

桜を植えた一人ひとりが環境の大切さ、自然の良さに関心をもってもらいたい。そして、次代を担う子どもたちに郷土を愛し、自然を大切にする心を育んでもらおうと、地元の前田小学校の全校生徒も参加、総勢100人がヤマザクラ150本を手分けして植えました。

植樹のあと、四季美湖に移動して阿仁川漁協の協力で、イワナとサクラマスを3,000匹ずつ放流しました。

桜が未来まできれいに咲き続けるよう頑張って作業しました

「元気に育ってね。」

桜が咲く頃、訪れようね！

秋田市　子どもたちが「健康の森」で森遊びを満喫　《10月4日》

場　　所●秋田市下浜「健康の森」
実施主体●あきたチャイルドクラブ、能代市「轟保育園」

～『健康の森』と子どもたち～

『健康の森』は、秋田森の会・風のハーモニー代表の佐藤清太郎さんが所有する森林で、約30haの森を『健康の森』と名付けて会員に解放しています。会活動の一つである「森の保育園」は平成7年から始まり、もう今年で20年目を迎えました。最初にここを訪れた子どもたちはとっくに成人しているという歴史を持っています。最近は、子どもたちの憩いの森として延べで８０回以上3,000人の園児が訪れてくれます。

この日は、秋田県水と緑の森づくり税を利用して能代市の『轟保育園』の園児やその父兄と、秋田市の『あきたチャイルドクラブ』の子どもたちが訪れ、森での遊びを満喫しました。

あきたチャイルドクラブ――森で育った子どもたち

『あきたチャイルドクラブ』の子どもたちは、『あきたチャイルド園』の卒園生たち。

園児の時から季節に関係なく何度もこの森を訪れ、遊び慣れた所です。一緒に訪れた澤口勇人さんは、あきたチャイルド園を経営する理事長。「生きる力をつけることを目指して、清太郎さんの森で保育活動を行っています。森では、森が先生なので『森の保育園』と呼んでいるんです。」、「学力の向上もさることながら、自然体験も重要で、自然の中で遊びながら子どもたちの成長が育まれるのです。」と語ってくれました。

子どもたちは勝手知ったおなじみの森、元気よく森を巡って遊んだり森の不思議にふれたりと森とのふれあいを楽しんでいました。

子ども同士助け合ったり、木の根をつかんだりして急斜面を登ります

森の中で子どもたちはイキイキ。どんどん進んでいきます

轟保育園――「危ないからやめなさい」は禁句

お父さん、お母さんたちは笑って見守るだけ

泥まみれになって大はしゃぎ

服も靴もすっかり着替えて…

轟保育園では、「自然の中での保育を重視し、野外レクリエーションや畑作りを行っています。自然にふれあいながら子どもたちの五感を養ってもらいたいと考え、清太郎さんの森を訪れました。保育士が教えることができないことを森が教えてくれますね。」と副園長先生が話してくれました。この日は、森で遊ぶ子どもたちの姿を保護者にも見てもらいたいと思って大人数で訪れました。

この森では「子どもに危ないからやめなさいとか、何々してはいけませんと言わないこと。のびのび遊ばせて下さい。危険と思われる場所は、子どもたちより先に行って見守るか、危ないことがわかるように話してあげること」という掟があります。「危ないからやめなさい」から解放された子どもたち、好奇心・遊び心が一気に爆発し、森中に歓声が響きます。泥にはまってしまうと泥遊び、お父さんやお母さんはなすすべもなく笑って見てるだけです。

東成瀬村

水源の森を育む森林体験教室　《10月21日》

場　　所●東成瀬村岩井川「ふれあいの森」他
実施主体●東成瀬村

「ジュネス栗駒」が整備されるまで、地域のスキー場として利用されていたゲレンデ跡地を森に復元し水源の森を造ろうと、平成22 年度から「秋田県水と緑の森づくり税」を財源に取り組んでいます。これまでにヤマザクラのほか、10 種類の広葉樹を植栽、併せて遊歩道も整備しました。

この日は、植樹や森林への手入れ作業を行うことによって森林の役割を学んでもらおうと、森林体験教室が開催されました。訪れたのは、東成瀬小学校の5年生34 人。

まずはスギ人工林で、枝打ちを体験しました。この作業は、節の少ない木材を生産することと、病害虫に強い健全な森林に導くことが目的です。雄勝広域森林組合の指導の下、枝打ちノコギリで枯れた枝を落としました。

「ふれあいの森」では、村に生えるブナの実から育てた苗木を 80 本植栽しました。地元に生えている木から種子を採って苗木にして植栽する、これを村では『森のコピー作戦』と呼んでいます。

「高いし、揺れるし難しかった」

早く森になるように、ていねいに植えました

参加者全員で記念写真。森づくりに協力してくれてありがとう！

にかほ市

木を育て心を育てる植樹活動　《10月7日》

場　　所●鳥海山霊峰
実施主体●秋田県立仁賀保高等学校

仁賀保高校では、鳥海山にブナを植え始めてから１５回目となる植樹会を開催しました。

学校では、この活動を５年を目途に終わりにしようとしたのですが、この活動を企画した当時の生徒会長が苗木代の寄付を申し出て継続を強く要望、その意気込みに応えて学校では県民提案事業を活用し植樹活動を行い早や１０年、“継続は力なり”、正にそのとおりです。

「鳥海山にブナを植える会」佐藤文夫副会長や会員達が学校に出向いて事前学習会を開催、学習会によって生徒たちの理解が深まったほか、植樹会でも盛んに質問しながら鍬を振るっています。「大きく丈夫に育ってね」と皆々唱えながら、参加した１４６名の生徒達は良い笑顔になっていました。着実に心も育っていっているようで、今日植えたブナもしっかり根付いてくれることでしょう。指導を行った会員も嬉しそうでした。

協力しながらていねいに埋め戻します

標柱を設置しました

根付くようにしっかり踏んでネ！

由利本荘市

里山スクールで紙芝居も！　《10月29日》

場　　所●由利本荘市東由利法内「山遊庭の森」
実施主体●東由利林業懇話会

阿部重助さんは、自身の山林約5ha を「山遊庭の森」と名付け一般に開放しています。この森では、森林環境学習活動支援事業を活用して季節に合わせた体験学習を行っています。

この日は、東由利小学校の 3年生と 4年生39人の児童が参加し、キノコの収穫や草刈り・枝打ちを体験しました。

3年生は、スギの木の周りの刈り払い、スギの木が草に負けないようにする作業です。4年生は鎌を使っての枝打ち、これも林業では大切な作業です。そして、みんなが春に植菌したシイタケやナメコを収穫です。家へ持ち帰って、山の恵みを堪能したことでしょう。

会員は、「森や木にふれることで、森林や環境問題について理解してもらい、豊かな心を育んでもらいたい。」と一生懸命この活動に取り組んでいます。

ゴーグルを着けて頑張りました。格好いい！

ナメコの収穫。原木栽培のナメコは美味しいね！

紙芝居「森はみんなのたからもの」わかりやすく好評でした

大仙市

姫神公園で「大山桜植樹祭」を開催　《10月11日》

場　　所●大仙市姫神公園
実施主体●花館コミュニティ会議

大仙市の姫神公園は、かつて松山公園とも言われるほど、巨木のマツが繁って公園のシンボルとなっていました。しかし、松くい虫の被害により巨木がなくなり、地元では寂しい思いをしていました。そこで、花館公民館を中心とした花館地区コミュニティ会議（佐藤正雄会長）では、公園を新たな花の名所にしようとサクラの植樹を行うこととなりました。

この活動は、平成２１年度から始まり、今年度は県民提案事業を活用し整備を進めています。

当日は、花館小学校３年生６３名のほか父兄、県、市、公民館、財産区等の関係者が参加、花火の町「大曲」らしく、植樹開始の花火が打ち上げられ、華やかに開催されました。みんなで協力し、約３ｍもある大きなオオヤマザクラが２０本植栽されました。

佐藤会長は、「将来、角館町に勝る名所にしたい。」と意気込んでいます。

みんなで丁寧に植えました

開会式です

天気のよい日に頑張りました

みんなで行動
森づくり

森林を育み、河川環境を守る「ヤマメの森」植樹事業

湯沢市河川愛護会

平成26年6月21日、湯沢市河川愛護会、雄勝高等学校の生徒等が集まり、ブナ苗木の植樹やドングリの実を使った木の実細工づくりを体験しました。

湯沢市河川愛護会は、雄勝漁業協同組合、皆瀬筋漁業協同組合、秋田木工株式会社、秋田エプソン株式会社、特定非営利活動法人釣り環境保全ネットワーク、湯沢おやじの会の6団体が湯沢市にある河川の「地域資源の維持、回復を図ること」及び「漁村の伝統文化、食文化等の伝承機会の提供」を目的として、平成25年に結成した団体です。

植樹活動の始まりは、平成18年に雄勝漁業協同組合が河川を取り巻く自然環境の悪化を懸念し、秋田森林管理署湯沢支署から秋ノ宮役内川上流の役内国有林約1haを借り受け、10年掛けて広葉樹を植林しようと実施したことでした。

一見畑違いに見える漁業関係者が森林に目を向け活動しています。

さて、今年の「ヤマメの森」植樹活動は82名が参加しました。開会式で植樹方法の説明を受けていよいよ作業の開始です。参加した皆さんは、地面の傾斜や灌木の根などが邪魔をして、なかなか植え穴を掘れず苦戦していましたが、植えた木の横に自分の名前を書いた標柱を打ち込んで完成すると満足気な様子でした。苦労した分、思い出に深く残ることでしょう。

植樹終了後、近くの沢にヤマメを放流し、湯沢市秋ノ宮の旧中山小学校の校舎へ移動して昼食をとりました。昼食会場では、秋田木工株式会社の方々から曲げ木家具の作業工程を説明いただきました。椅子一脚に使用するパーツは、曲げ木なら少なくて済み強度も増すなど曲げ木の良さを実感できたようです。

午後からは、福島県で〝どんぐりおじさん〟として活動している2名の方から木の実細工の作り方を教わり、「木の実ストラップ」作りに挑戦しました。細かい作業でしたが、皆さん目をこらして真剣に作業していました。

このように丸一日、木に接する機会を設け、参加者の方々には森林の大切さを実感いただけたかと思います。

今年度で植栽が完了し、植栽活動の一区切りの年となりますが、漁業関係者にとっても森林は重要な宝物と位置づけ、今後も活動に励んで参りますので応援をお願いします。

元気に育てと願いヤマメを放流

秋田エプソンと秋田木工から苗木をプレゼントされました

「木の実ストラップ」作り
何ができるのかな？興味津々です

82名の参加者が植樹に汗を流しました

植え穴を掘るのに苦戦

小学生の林業体験教室を開催

五城目林業研究グループ

秋晴れの10月29日、五城目町で林業体験教室が開催されました。

五城目小学校と大川小学校の元気な小学5年生64名を対象に開催されたこの体験教室で植樹、測樹、間伐作業の見学、さらには木材加工や利用などを学びました。

この体験学習は今年初めてのことで、五城目町の森林組合の有志でつくる五城目林業研究グループ（佐藤悦郎会長）が企画したもので、事前に会長が学校を訪れて、森林の働きや木材の利用などの講義を行った後を受けて今回の体験教室となりました。

植樹会場は森山の麓の町有林で開かれ、林業研究グループ員の指導のもと、クワやスコップを使用し、クリ、コナラ、ブナ、サクラ各10本、計40本を丁寧に植えました。

「土が堅くて植え穴を掘るのが難しかったけれど、頑張って植えたよ。まっすぐ大きく伸びて立派な木になって欲しい。」と、将来大きくなる樹に思いをはせました。

その後、植樹会場から森林組合に隣接するスギ人工林に移動し、測樹体験として目測、巻尺等を使用し、立木や伐倒木の樹高や直径を楽しみながら測定し、さらに、チェンソー使用しての間伐作業を見学しました。

スギの直径は20㎝です

青空の下での植樹です

チェンソー音が響きます
熟練者による木の伐採に
感心しながら見学です

最後には、土場の大きく積み上げられた丸太を見ながら、森林組合長から木材の加工・流通関係の講話がありました。

五城目町は古くから林業の栄えた町で、民有林の人工林率は県平均58％を上回る83％にも達しています。森林組合長は、「林業はかつて町の重要な産業で、町を支えきたんですよ。」と、その歴史を生徒たちに伝えました。

この体験教室を企画した佐藤悦郎会長は、「これまで町の基幹産業である林業を、次世代の子供達に引き継いでいくためにも、会員一体となってこれからもこの体験教室を続けていきたい。」と、力強く抱負を語ってくれました。

貯木場の丸太を見ながら木材産業の歴史を学びました

緑とともに生きる

緑のムラ

北ノ又

きたのまた

五城目町・北ノ又集落

「釣りキチ三平」は、少年マガジンに連載された人気漫画で、大人になっても夢中になって読んでいた。その実写版映画のロケで三平の村に選ばれたのが、馬場目岳山麓に広がる山里・五城目町北ノ又集落である。この集落は、1987(昭和62)年に公開された映画「イタズ―熊―」のロケ現場にもなっている。

棚田が広がる高台に茅葺民家が連なる風景は、日本昔話に出てくるような心温まる風景である。坂を上りながら三平の家に向かうと…お父さんに肩車された幼い三平と姉・愛子が茅葺民家の前の坂道を歩きながら、お父さんが「あんな怪物、釣り上げた感触は、一体どんただもんだべ…想像しただけで鳥肌が立つ」と、語るシーンが蘇る。

現在、三平家は空き屋になっているが、映画撮影記念として整備され、撮影の様子を写した写真パネルや出演者のサイン色紙、原作者・矢口高雄さんのカラーサイン色紙などが飾られている。管理人は、この家の持ち主・潟上市の近藤俊一さんである。

ここから約2㎞上流に、名所「ネコバリ岩」がある。看板がある広場に駐車し、3分ほど歩くと、ひときわ目を引くネコバリ岩が現れる。この周辺は、通称「デロ杉」流域と呼ばれているが、ここで渓流を遡行するシーンの撮影が行われた。ネコバリ岩は、高さ約6メートルの巨岩の上に、ブナやカエデ約10本が根を張った巨木の森…その根が波のように張って離れた地面とつながっていることから「ネコバリ(根古波離)岩」と名付けられたという。

北ノ又集落の手前、蛇喰(じゃばみ)地区には、古民家を復元した茅葺の盆城庵がある。ここは、山村生活を体験できる一日一組限定の自炊の宿である。その隣に農家レストラン「清流の森」がある。かつては杉沢小中学校の北ノ又冬季分校だった建物を改装して農家レストランに生まれ変わった。木漏れ日が射し込む格子戸の窓から、四季折々変化する「清流の森」を眺めながら食べるレストランは、ここしかない最大のご馳走である。

2013年11月2日、「人生の楽園」で「清流の森」が放映された直後は、行列ができ、昼食を食べられなかったお客さんもいたほど人気が爆発したという。地元のお母さん方が提供する絶品メニューは、清流定食、炊込みセット、だまこ鍋の3種類である。

築100年の三平家で昔の山里の暮らしに浸り、ネコバリ岩周辺の森林浴と渓流のマイナスイオンでリフレッシュした後、昼食は「清流の森」で郷土料理を味わう。シーズンごとに訪れてみたい「緑のムラ」である。

映画「釣りキチ三平」ロケ地

実写版映画「釣りキチ三平」のロケ現場となった北ノ又集落

3

1

2

4

1 釣りキチ三平の家／築100年の茅葺民家。2 室内には、撮影の様子を写した写真パネルや出演者のサイン色紙などが展示されている。
3 ネコバリ(根古波離)岩／渓流沿いにひときわ存在感を放つ巨岩。
4 盆城庵／古民家を復元した茅葺の家で、山村生活を体験できる一日一組限定の自炊の宿。

農家レストラン 清流の森／木漏れ日が射し込む格子戸の窓から、四季折々変化する「清流の森」を眺めながら食べられる農家レストラン。写真は清流定食(コーヒー付き)。

トピックス

トピックス1 森林ボランティア連絡会議で活動発表会を開催

発表する高橋三夫さん

発表する熊谷章さん

平成26年度の森林ボランティア連絡会議は、9月4日に秋田市「イヤタカ」で開催し、87名が参加しました。会議では、県内で活動している２つ森林ボランティア団体の活動事例発表と関係機関からの情報提供を行いました。

会場からは活発な質問や意見が述べられたほか、会議終了後も意見交換している姿が見られました。次年度は、森林ボランティア団体の交流促進の場となるような会議を企画してまいります。

なお、発表された高橋三夫さんと熊谷章さんには、暑い夏のなか、活動報告を取りまとめていただき、心より感謝申し上げます。当日の発表演題は以下のとおりでした。

■森林の多面的機能を高める森づくり～二酸化炭素吸収機能を考慮した活動～
権現山里山保全ネット（由利本荘市）　代表　高橋三夫氏

■長年放置されてきた共有林の再生計画とその実践
金沢諏訪堂の会（美郷町）　代表　熊谷章氏

トピックス2 農林中央金庫秋田支店が紙芝居「森はみんなのたからもの」を寄贈

読み手の遠田順夫さん、熱がこもっています。
衣装も凝りました。

真剣に見てくれました

小学生の木育教育の教材としてもらうため、農林中央金庫秋田支店（山本興一郎支店長）ではCSR（企業の社会的責任）事業の一環として木育紙芝居「森はみんなのたからもの」を秋田県に寄贈してくれました。県では、多くの小学校等に活用してもらうため、あきた森づくり活動サポートセンターに備え付けることとしました。10月21日に贈呈式を開催、校外学習活動でプラザクリプトンを訪れていた秋田市立中通小学校2年生40名に、県森の案内人の遠田順夫さんが紙芝居を初披露しました。

物語は、小学生の主人公が森の妖精ECOCO（エココ）と出会い、森林整備から木材利用の大切さ、山と海の関係などを学ぶもので、児童たちは、紙芝居の面白さに食い入るように聞き入っていました。

あきた森づくり活動サポートセンターでは、希望者に紙芝居の箱と拍子木をセットで貸出を行っております。ご希望の方はご連絡下さい。これまで、10数団体に読み聞かせを行っておりますが、わかりやすいと好評です。

秋田県からのお知らせ

県では水と緑の森づくり税を活用し、こどもたちに森林の役割や木材の利用について理解を深めてもらうことを目的として副読本「あきたの森林」を県内の小学４年生全員に毎年配布しています。

世界の森林から日本の森林、そして秋田県の森林までその状況を段階的に説明することはもとより、森林のはたらきや身近な木材の利用といったことまで森や木に関して挿絵や写真を多く使い、こどもにとって大変興味を持って楽しめる内容になっています。

また、今ある森林を未来に引き継いでいくため自分たちができることは何なのかといったことも掲載し、単に読んで終わるだけではなく行動に移して考えさせる内容も含んだ冊子となっています。

全国有数の森林県である秋田県で育つこどもたちにとって、貴重な副読本となっているようです。

ご紹介したこの副読本、学校の授業や総合的な学習の時間以外でも活用していただくことも可能です。こどもを集めて森林ボランティア団体が開催する森林体験学習会等たくさんの箇所で幅広く活用していただきたいとも考えています。

あきた森づくり活動サポートセンターをはじめ、お近くの地域振興局森づくり推進課でも入手できますのでお気軽に問い合わせしてみてください。

あきた森づくり活動サポートセンターからのお知らせ

活動を取材します

あきた森づくり活動サポートセンターでは、森林ボランティアの皆さんが企画・実施するイベントや、水と緑の森づくり税を活用した活動を取材し、ホームページやこの冊子で紹介しております。取材ご希望の場合は、開催月日、集合時間と場所、連絡先電話番号をファックス又はメールでお知らせ下さい。

秋田県森の案内人を募集します

県民の方々が、森林観察や林業体験を行うことによって森林・林業の役割を学ぼうとするとき、その手助けをしてくれるのが「森の案内人」で、現在59名の方が活躍しております。最近、森林学習体験等に関するイベントが増加してきていることから、平成27年度に森の案内人の育成する講習会を行うこととしました。

秋田の森林・林業の知識を得て、その役割や重要性を伝える「森の案内人」になってみませんか。募集は4月、当センターホームページに掲載します。

なお、募集の概要は次のとおり計画しています。

●認定機関　あきた森づくり活動サポートセンター

●募集人員　15名（定員を超えた場合、書類選考となります）

●条　　件
①指導派遣依頼に対応できること
②年３回開催する（土曜日を計画）養成講習会に出席できること
③秋田県森の案内人協議会に入会し、同協議会が開催する行事に年２回以上参加すること

●講習内容
森林・林業に関する基礎知識、森林調査基礎知識、林業作業、森林・林業体験活動の企画運営・実習等

写真：プラザクリプトンの森での森林観察指導の様子

情報誌の発送について

今回は、５０名以上の会員のいる団体には、５０部を送らせていただきました。さらに部数が必要な場合はご連絡下さい。別便でお送りします。

あきた森づくり活動サポートセンター（愛称：モリエールあきた）
〒019-2611
秋田県秋田市河辺戸島字上祭沢38-4　プラザクリプトン内
TEL 018-882-5570　FAX 018-882-5571
E-mail：akt-forest@triton.ocn.ne.jp　HP：www.forest-akita.jp/